

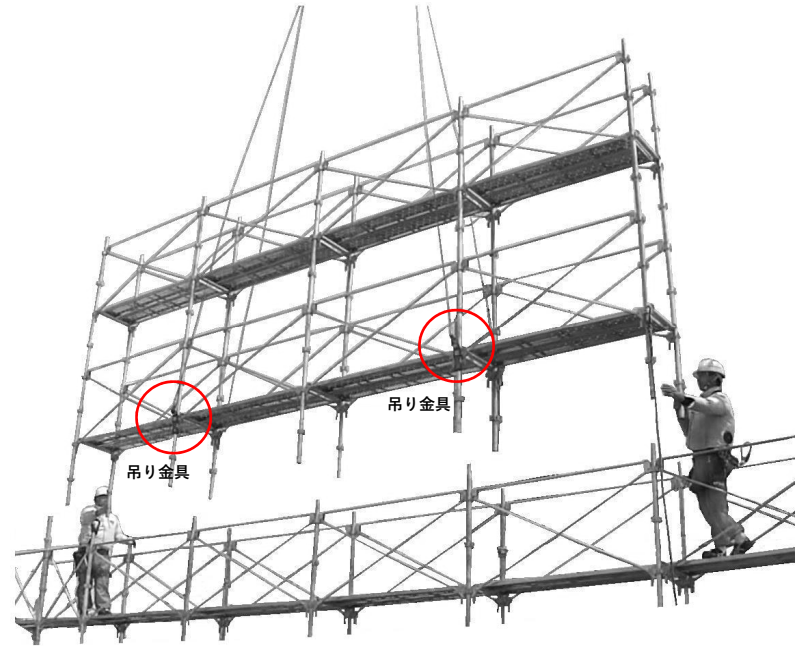
吊金具 SPHB-1.0T . . . 1.24 kg

許容荷重 200 kg



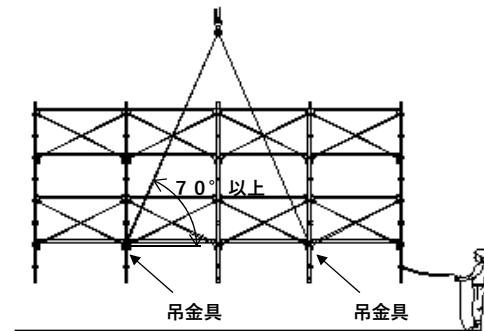
4台セットで使用の事。

2層5スパン（1219幅）の足場を吊り上げ可能です。



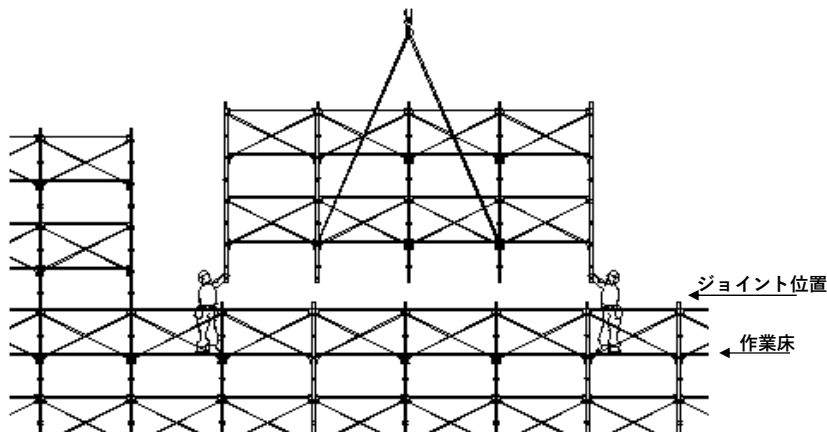
吊上げ

4点吊りとし、左図の位置に吊り金具を取付ける。
吊り角度は70°以上とする。
玉掛ワイヤーは12mm以上を使用する。
クサビ等のゆりみがないか確認する。
介錯ロープを取付け、つり荷を誘導する。



ブロック組付け

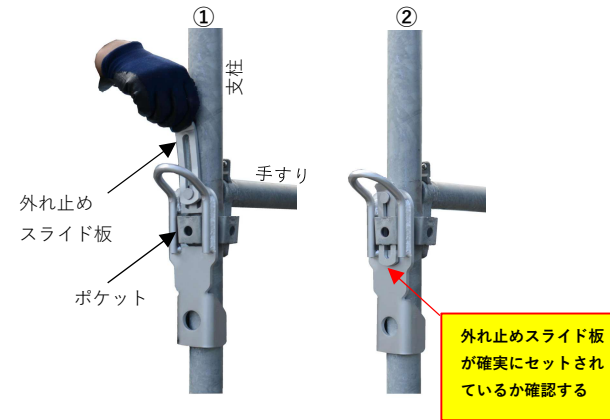
迎え入れる作業員は墜落制止用器具を使用する。
介錯ロープでつり荷を誘導する。
支柱を納める際には挟まれに注意する。
建地が納まったら確実にジョイントをロックする。
壁つなぎを設置する。
玉掛ワイヤーを取り外す際には、足場に引っ掛からないように離れるまで確認する。
既存ブロックとの間のスパンの先行手すり、床付き布わくを組立てる。



解体は逆の手順とする

吊金具 取付方法

- ① 外れ止めスライド板を引上げ、吊り金具を支柱ポケットに合わせる。
- ② 外れ止めスライド板を支柱ポケットに差し込む。



- * 取付位置は床付布枠の設置面とする。
- * 変形した取付金具は使用しないこと。
- * 外れ止めスライド板が確実に挿入されていることを確認する。
- * 玉掛ワイヤーはφ16mm以上のシャックルを用いて吊り金具に取付ける。
- * 玉掛ワイヤーはφ12mm以上を使用する。



2018/7/17
信和株式会社 土倉工場試験室

強度試験

吊金具 荷重試験

試験方法

写真のように試験機に治具を介して吊り金具を30度傾けた状態で取付け、吊り金具に引張荷重をかけ、破壊荷重を測定する。

試験結果

10 kNにて試験中止（破壊無し）



10 k N 時の状況



試験前供試体



試験後供試体

安全率

使用荷重（許容荷重） 200 kg とする。
安全率 : 1019 kg (10 kN) / 200 kg = 5.0

大組、大払の検証

(足場の条件)	(足場の重量)	(吊り金具の安全性)
片面先行手摺、片面二段手摺 1219幅、1829スパン足場 2層5スパンを1ブロックとする	1ブロック重量 730 kg	吊金具4個で吊り上げるので、1個当たりの荷重は、 730 / 4 = 182.5 kg ≦ 200 kg